慶蔵院寺報
公孫樹
2021年10月発行
第117号
浄土宗慶蔵院
伊勢市小俣町元町1211
℡0596（22）3726

24時間不断念仏会　　西里定一　画

浄土宗二十五霊場の一つ、伊勢の欣浄寺復興支援
浄財募金への協力を、よろしくお願いします。

「欣浄寺復興祈念」を、二十四時間不断念仏に心こめ

三ページに「欣浄寺、復興支援・浄財募金」のお願いをさせていただきました。お届けした封筒にて、皆様のお志をお届けくださいますよう、どうぞ、よろしくお願いします。

秋彼岸法要でもお話しさせていただきましたが、七月八日、漏電が原因で焼失した欣浄寺様は、浄土宗二十五霊場の一つ。法然上人ゆかりのお寺です。法然上人が伊勢神宮に参詣したさい、「お念仏をすすめよ」との信託とともに、太陽に南無阿弥陀仏の名号が浮かび上がりました。法然上人は、太陽に浮かび上がる名号を軸にされ、外宮に奉納されました。その後外宮が焼けたとき、軸は、天にまい上がり、竹の笹にかかっていたことから欣浄寺寺宝とされ「笹の葉名号」として大切にされてきました。さらにまた伊勢に対する法然上人の思いは深く、四国に流罪になる際、これで伊勢に行くことができなくなると自らの姿を刻み、これを伊勢に届けるようにと託されたのでした。今回の火事で軸も像も焼失してしまったようです。とても残念なことです。

観智院の土屋正道上人が檀家さんとバスで欣浄寺様を参詣され、その足で慶蔵院にも立ち寄ってくださったのが数年前、その土屋上人からオンライン、二十四時間不断念仏参加への呼びかけがありました。京都の大本山清浄華院を中心に全国・全世界を結ぶ念仏…ということで、慶蔵院も参加させていただきました。二十五日の午後七時半～八時半、男性詠唱隊の皆さんを中心に、二十名ほどの参加者を得ることができました。西里さんも取材に来てくださって扉絵を描いてくれました。

お念仏の祈りを込めて、一刻も早い欣浄寺復興・再建にむけて、皆様からの浄財のお志を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

10 月の行事予定

6 日（水）	写経 映画会	午前１０時～ 午後７時半～
13 日（水）	念仏会	午後７時半～
17 日（日）	子ども会	午前 10 時～
20 日（水）	健康教室 歩き方教室 講師　馬場久美子先生 男性詠唱隊	午後１時～ 健康教室・歩き方教室 参加費５００円 （中止の場合があります。） 午後７時半～
27 日（水）	読経会	午後７時半～
25 日（月）	戦没者慰霊	午前１１時～
14 日（木）	ともいき英語サロン 講師　三浦邦昭先生	午前１０時～１１時半 午後１時半～３時
8 日・22 日（金）	茶道教室 講師　河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後７時～子供茶道教室 ７時半～大人茶道教室 子ども　無料　大人　５００円
予約があれば水曜日	キサンシンギングボウル ヒーリング	要望に応じて 30 分～60 分

慶蔵院豆知識 ⑭

何かを忘れてしまったような夏が過ぎ、季節は秋になりました。青空にもくもくとのぼりゆく入道雲を、夏が忘れてしまっても、灯火親しむ秋になると、勉強がしたくなってきます。まだまだその気持ちを忘れてはいないと知って、嬉しくなります。よし本を読もう…。

人の小過を責せず
人の陰私を発かず
人の旧悪を念わず
三者を以て徳を養うべく
また以て害に遠ざかるべし

これは中国の明の時代に書き残された「菜根譚」という随筆集の一節です。江戸時代の中期に日本に伝えられました。

人のちょっとした過ちを、自分だってしてしまうことがあるのに、責め立ててはいけない。

人がそっとしておいてほしいと思っていることを暴露してはいけない。

人から受けた傷をいつまでも引きずっていたり、昔のことを根に持っていてはいけない。

この三つを実践して徳を積み、自らのいたらなさを反省していこう。

慶蔵院の玄関に「道在爾」の額が掲げられています。道理にそって人が歩けば、自然に道ができていくのでしょう。歩き続けなければ…。

（栄子）

浄土宗新聞を無料でお渡しします！！

10 月号読みどころ
P.4「彫ることは生きること」。仏師である加藤さんは「人の尊さ、祈り、畏怖というものを、木彫を通して形にする…信仰することは、人が人として尊厳をもって生きる上で不可欠なもの…仏師として衆生の救いとなるようなものを生み出していく…」と語っています。

P.5「仏教でカウンセリング」。友達に「私のいいところ３つ教えて」と聞く。教えてもらったことを信用する。次に「私が直した方がいいとこを一つ教えて…」と聞く。よく人の話を聞くことが大切。３割聞いていたら優秀…。

10 月 17 日（日）

午前 10 時～12 時

第一部

絵本・紙芝居
高橋薫さんグループ

第二部

マジックショー

「欣浄寺再興基金」

浄財の喜捨、よろしくお願いします

伊勢の欣浄寺様が、７月８日、全焼。他人ごとではありません。伊勢教区からの「欣浄寺、復興のための基金への協力要請」に応えて、浄財寄付のお願いをさせていただきます。よろしくお願いします。

同封の封筒に、できれば氏名・金額を記入の上、寺ぜ話人さん、または慶蔵院までお届けくださいますよう、お願い申し上げます。10 月１７日までに集約を…と考えています。

金額は、いくらでも結構です。お一人、お一人の再興へのお気持ちを入れていただけませんか…。23 日の寺ぜ話人会議で、「いくら入れたらいいのかと聞かれたら、どう応えたらいいだろうか…」と話題になりました。その際は「あくまでも寄付ですから、お気持ちでお願いします…ということを前提として…ワンコイン 500 円くらいではどうでしょうか…」と言わせていただくことに…というまとめをしました。ご参考までにお伝えさせていただきます。ご判断いただきまして、よろ

駐車場を購入することになりました

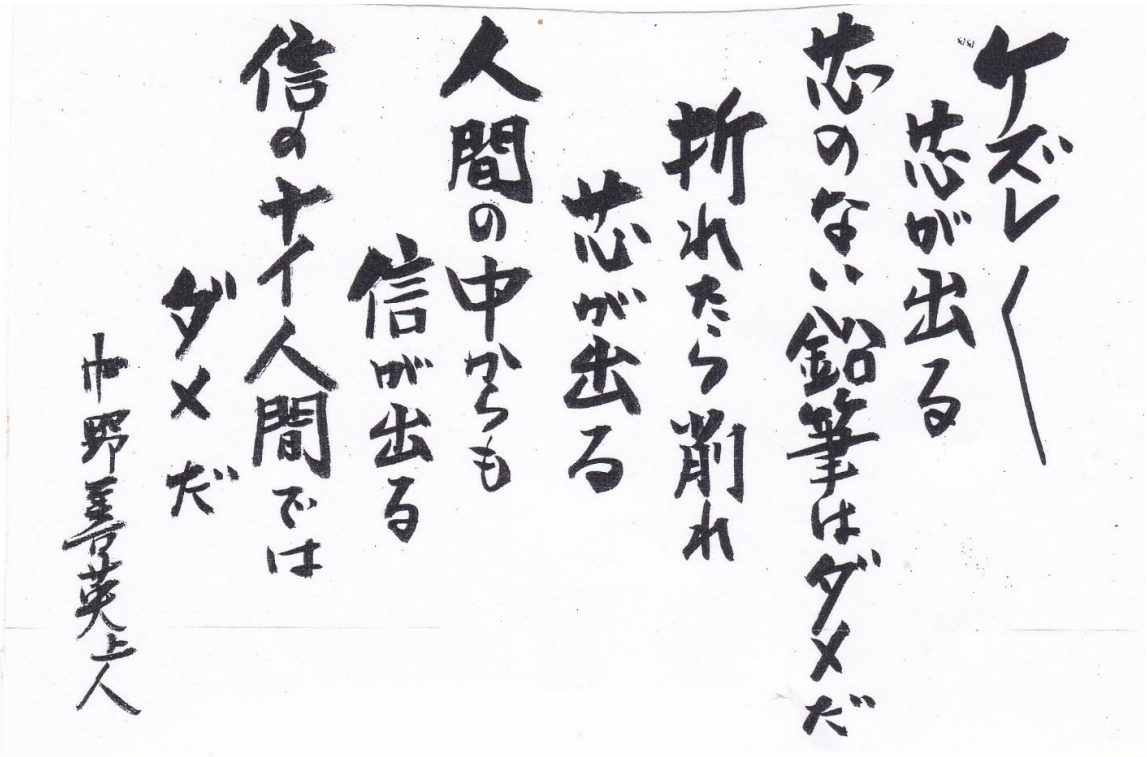
このほど宗教法人規則第二四条に定める手続きを経て、駐車場約九百㎡を取得することになりましたので規則第二三条の規程により公告します。文書は境内に掲載してあります。

赤トンボ裏の縁台独り酒

奥田　悦生

（「知恩」誌十月号「柳壇」に掲載）

一味誌再々刊　　第21号



芯が折れた鉛筆を削るように、自分の殻を削って削って、自分がとらわれてきたもの・拘ってきたものを削ぎ落していかなければ、新しい世界は見えてこない。でないと、すべてが闇の中に埋もれてしまう。

どうやって自分を削ることができるのか…、人によって、気づいたやり方は色々あるだろう。念仏者は「南無阿弥陀仏」を称え続け「清浄光」に包まれ「難思光」の中に信心を呼び覚まさせてもらっている。

三味線を手に門付けをしながら村々を巡り、唄をとどけた盲目の女旅芸人がいた。その一人、小林ハルさんは一九七八年人間国宝になり、二〇〇〇年に百歳に。

横井久美子は、ハルさんを訪ねた。弟子にしてもらおうと思っていた。お会いしたハルさんの生きざまに圧倒される。寒中の信濃川に向って声の限りに歌う「寒三〇日の修行」を二十年間続けたハルさん。その出会いから「赤い椿と青いげんぼし」の歌が生まれた。「げんぼし」は、植物のギボウシのこと。子供のころに見た椿の赤とギボウシの青の色が忘れられないというハルさんの声が歌になった。

「闇を背負って七十年、好きで始めた商売じゃない。旅はそりゃきついもんさ。ただ私らの歌を聞きたいと、待ってる人が大勢いた。だからひたすら旅をした。…今でも鮮やかに覚えているよ。赤い椿とげんぼしの青。それも七重にも八重にもなって見えた…。」

弟子にはならなかったが横井久美子は、全国を回った春秋楽座の中でハルさんを生きていたのだ。横井は、この世の闇の中に、はっきりと光を見ていたと思えてくる。生きて生きて、生きぬいて、私たちの中に「椿の赤とげんぼしの青」という「信」を喚起させなくてはならない。

慶蔵院ホームページ：http://www.keizouin.com/　をご覧下さ